

住民の手で集落点検・将来構想づくりを実施！ “小さな行政”によるトータルでの地域づくり

昭和47年「自らの地域は自らの手で」という理念のもと設立された川根振興協議会では、役員会の下、総務、農林、教育、福祉、文化など、一般的に行政が有する全ての部門の窓口を網羅した“小さな行政”ともいべき組織体系をもつ。「環境」をテーマに「エコミュージアム」「ほたるまつり」による都市交流と、お好み住宅によるＩターン・Ｕターン者の移住促進を図る。



背景と課題

人口流出・高齢化の加速

川根地区は、広島県北部、安芸高田市の北端に位置、農業と薪炭林を主産業とする山間農業地域である。昭和31年に川根村・来原村・船佐村が合併して高宮町に、また、平成16年に、高宮町を含む高田郡6町が合併して安芸高田市となった。

昭和40年代からの深刻な過疎化に対し、地域住民が主体的に地域づくりに取り組むための組織が必要であると強く認識され、昭和47年2月、「川根振興協議会」(以下、振興会)が発足した。

その直後の昭和47年7月、中国地方を集中豪雨が襲った。住民自ら援助班を編成し、災害復旧活動にあたった。これを契機として、地域復興への強い意志が生まれ、広範にわたる地域づくり活動が開始された。



取組のきっかけ

川根夢ろまん宣言

平成3年には、地域住民自らの手で集落点検を行い、各集落の自慢、良いところを出し合って、川根の将来構想図『川根夢ろまん宣言』を作成した。この将来ビジョンが、その後のすべての活動の土台となっている。

また、平成4年、子どもの減少により廃校になった川根中学校跡地の活用方法について、企画段階から振興会が関わった。そして、地域の「教育文化機能」がなくならないよう「川根地区全体を“環境の博物館”とし、学び受け継いでいくための施設をつくろう」と考え、交流拠点施設「エコミュージアム川根」が設置された。施設自体は市が所有するが、管理・運営は振興会、地元企業、助成会などから成る「エコミュージアム川根運営協会」が行っている。

川根振興協議会

所在地：〒739-1801

広島県安芸高田市

高宮町川根

(「エコミュージアム川根」内)

連絡先：0826-58-0001

FAX：0826-58-0456

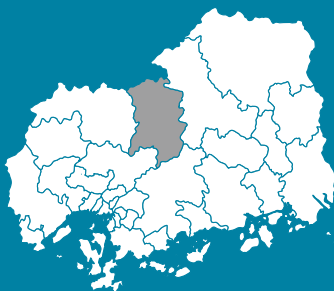
広島県安芸高田市

総人口：32,775人

高齢化率：40.4%

世帯数：13,225世帯

総面積：537.79 km²





都市交流と定住促進、トータルな地域づくり

取組 1

中学校跡地を活用した交流拠点施設の整備

川根地区全体を“環境の博物館”とし、学び受け継いでいくため施設をつくろうと考え、郷土料理を提供する交流宿泊施設「エコミュージアム川根」が開設された。この建物の一部には、川根中学校舎の廊下の壁板や構造材が仕上げ材として使われている。



取組 2

ほたるまつりと農家庭先味めぐり

地域に群舞するホタルの育成環境を守るとともに、地区外からの「人の流れ」を「小さな経済」につなげるために「ほたるまつり」を開催。あわせて、散策する道路沿いの農家が特産品の販売や自慢の郷土料理をふるまう「農家庭先味めぐり」や、郷土芸能の披露などが行われる。

取組 3

お好み住宅

小学校の維持と地域の担い手確保のため、入居者が設計に関われる公営住宅「お好み住宅」を市へ提案。地域活動への参加や義務教育終了までの子どもがいることを条件に、更地のときに募集をかけ、その金額枠の中で入居者の好みの設計をできるようにした。

取組 4

地域は地域で支えるトータルケア

平成12年、地域唯一の物販店だったJA店舗が撤退した。地域の生活を守るため、JA店舗の跡地に住民出資により「ふれあいマーケット」を設置。ガソリンスタンド（ふれあいスタンド）も併設し、運営を行う。

また、安心して住める地域づくりのため、一人一日一円募金を行う。この募金を財源に独り暮らし高齢者宅への弁当配達などを通じて、高齢者への訪問活動を続けている。



成果

年間 4,000 人余の利用者

エコミュージアム川根では宿泊のほか、四季折々の薬膳料理、地元でとれた鮎、ヤマメといった食材を提供する。都市住民や視察の受け入れなどによって、年間4,000人を超える利用者が訪れている。

都市住民との交流

ほたるまつりの開催によって、自然以外に何もなかった地域に、バスツアーなどによって、5,000人余の人々が訪れるようになった。

地域雇用の創出

地場産業が少ない地域ではあるが、エコミュージアム川根では、地元住民16名の雇用の場を創出している。

I・U ターンの増加

18世帯76人がI・Uターンにより入居。今では、元々地元に住んでいた者よりも、移住者からの通学児童・生徒の方が多くなるまでになった。